第４回安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会　会議概要

１　会議名　　第４回安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会
２　日　時　　令和６年11月15日（金）　午前10時00分から11時50分まで
３　会　場　　安曇野市役所本庁舎　共用会議室305
４　出席者　　笹本正治委員、百瀬新治委員、金井直委員、佐藤亜紀子委員、丸山亨委員、
　　倉石あつ子委員
５　欠席者　　中村寛志委員、横山はるえ委員
６　市側出席者　三澤課長、事務局、逸見係長、児玉副主幹、原明芳館長
７　公開・非公開の別　　一部非公開
８　傍聴人　３人　　記者　１人
９　会議概要作成年月日　令和６年11月22日

会　議　事　項　等

〇会議の概要
１　開会（三澤課長）
２　あいさつ（三澤課長）
　　（笹本委員長）
３　協議
一部非公開について
市情報公開条例第５条第１項１項第５号に基づき協議事項（3）を非公開とするよう決定した。
(1)　博物館施設全体の方向性について
（事務局説明）
（委員長）
　地域を巡る博物館はどこでもやっているが、地域を巡ってもらえる核としての新博物館と地域の繋がりをどのようにするか、博物館同士の連携だけではなく市民との連携をどうするかということが課題だ。
　安曇野市は非常に動きが良く博物館協議会も豊科郷土博物館だけではなくいろんなものが連動しており連携しやすい。
　これからどうするかだが、現実問題として学芸員がどのぐらいいるかだ。
　それによって、「連携」と一言でいってもコーディネートする人が大変だ。
　今の段階で理想的な意見を言っても、最終的には人がいない場合、できることは限られてくる。加えて予算も限られてくる。
　そのことを承知した上で私達としては少しでも良い博物館を作っていきたい。
（委員）
　発信連携の話で質の良い発信を考えていかなければいけない。
　また、地域を巡ることについては交通手段をどうするのかが心配。
　曜日を決めて、市の方でバスを用意するなどしなければならないだろう。
　考えておいた方がよい点として「市民との連携」で、友の会だ。既存でいくつかあるが、全団体に協力してもらえるとは考えないほうがよいと思う。
（委員長）
　発信は博物館だけの問題ではなく、市民の生活や観光と密接な関係を持っているため、それに対して質の良いこともまた課題だ。今や博物館のデジタル化が進んできている中で発信をどうしていくか、これは今後の大きな課題として我々も認識していきたい。
　二つ目として交通手段についても、課題として具体的に考えていかなければならない。子供や自分で運転できない高齢者はどうしていったらいいのかを含めて具体的に考えていきたい。
　それから市民団体の問題は、建物よりまず先に人との関係をしっかり作り、その中で例えば子育て世代を博物館とどう繋げていくかといった、現状ソフト面で何ができるかという視点も大事になってくる。
　しかし一方で人員の問題もあり、必ずしもできないところもあるのでその点は理解してもらいたい。
（委員）
　コーディネーターあるいはコンシェルジュといった役割の学芸員と一般の鑑賞者相互の学び合いが成立する

場がミュージアムでそれをしっかり安曇野で受け止めていけるのだなと思い、楽しみだ。
収蔵庫の問題を具体的に考える必要がある。極めて貴重な重要資料は、完璧な空調管理のもと保管するなど具体的にどういう形でどう守るのか、収蔵ありきの議論なのではないかと思っている。
収蔵品によって切り分けを明確にして資料に対するスタンスをなるべく正確に出していくということが重要だ。
このプロセスを踏むと、おそらく美術館・博物館という垣根も考え直す必要がある。美術館にも重要資料があるはずで、空調の点やあるいはセキュリティなど美術館・博物館一体のものとして収蔵スペースを考えていく必要があるのではないか。
例えば収蔵展示など公開方法自体を考えていく。きちんと資料を説明しながら提示する「丁寧な鑑賞」を安曇野はやるのだといった方向を打ち出せば入館者数のみの議論から外れることができる。収蔵庫を軸としたことから立ち上がるミュージアム像が大切になるのではないか。
交通手段の問題について、近隣の大町であるとか越後妻有などの芸術祭のモデルが参考になると思う。
アートフェスのように各館が繋がっていることを示せるだろうし、他のコンテンツや他の関係も組み合わせながら、エコミュージアムあるいはフィールドミュージアムといった循環を創っていけると感じた。
（委員長）
安曇野市では学校ミュージアムの取り組みで、子供たちにとって博物館等がかなり親しみやすくなっている。これと同様なことをきちんと市民にも行っていくことが、コンシェルジュ（学芸員）の役割として要求されるだろう。
収蔵庫の問題について、収蔵物によって収蔵庫は違う。
博物館の最も重要なのは資料の収集・保管・展示の順序で、収蔵問題は改めて考えていかなければならない。
災害の頻発する中で、収蔵庫の場所によってはかえって大きな被害を受ける事例もある。また増えていく資料についてどこまで対応するのかも重要な論点だ。
交通問題は集客そのものに関わってくる。ただ市の財政規模を勘案して、例えば土日特定やイベント実施期間のみ巡回バスを運行するなど方法はいろいろあるが、今後大事な視点になってくる。
（委員）
コンセプトの中で「ターゲットを市民、特に子供たちとする」とあるが、地域を巡ってもらうのは観光客よりは市民の方、とりわけ子供たちに興味を持って回ってもらいたいというのがコンセプトだと思ってよいか。
（委員長）
長野県内で博物館の観光で経営が成り立っているところはほとんどない。
市民の皆さんに自分たちのふるさとをきちんと理解し、ふるさとに対して愛着を持ってもらって、未来について考えてもらうというのが本来の博物館だと思っている。
なので、まずは市民に地域を巡ってもらうことを前提にして、その次の段階で観光客にも巡ってもらうことを市には考えてほしい。
基本的に市民の皆さんに使ってもらえるような博物館を作っていき、次の段階として市民の皆さんの口コミで外部の人たちに来てもらえるような博物館を目指すべきだ。
（委員）
そうしたときに親子で楽しめる視点が大事で新博物館は一つのステーションになるような場所であるのが良いと思う。
例えば親子で楽しめるカフェのような形になっていて、そこに親子で来る。そこから出かけていくといった機能があると良い。また子供が楽しめるような博物館ということで、安曇野市の 9 館の児童館の職員を通じて子供たちがどんな博物館がいいか聞いてきた。
そんな中で「体験」が一つキーワードに上がった。
新しい博物館のコンセプトの一つである自然や民俗の部分の体験は従来の形だけでなく、新博物館では例えば土器の復元や博物館の案内を体験してみるといった東京のキッザニアのような、博物館の中の仕事を体験できるものであれば、市民や子供たちは何回も行ってみたくなるのではないか。
「学び」という構想の内容ともリンクしてくると思う。
（委員長）
博物館協議会においても、「子供たちに何をしてるか」を特記事項としてきた。親子に来てもらえるような館

を目指しているのが現状の安曇野市の特性だ。
　それをきちんとやっていくためには学芸員が必要だが、その人数によってはやれることは限られてくる。
　市には次の世代に繋がるように積極的に学芸員を採用してもらいたい。
（委員）
　私も気になってるのはやはり交通手段の問題だ。現状安曇野の観光タクシー会社は3社ある。
　年々ドライバーは減るばかりでバスやタクシーはあるのにも関わらず、ほぼ運用できないという状況がある。
　今、いろんな取り組みを始めているが状況は厳しくなると既にタクシー会社から言われている。一般の方、市民の方、さらに夏場は登山客がいて、ドライバー不足で乗り合いバスがなかなか来ない状況もあり、年金の支給日は観光客が利用できない状況だ。
　観光協会では「らくらくタクシー」という、バスが運営できないときに格安で使っていただくような企画もしている。
　それでも何とかやっている状況だ。市内ではスクールバスにドライバーが取られてしまうと、タクシーを観光向けに回せないと言われている。それから最近始まった「のるーと」というものもある。「のるーと」はもう台数が確保されている。そういった中で、平日の利用、週末の利用、シーズン的な利用をうまくバランスを取った交通手段を考えることが重要になってくる。そこを重視しないと、いいものがあるのに博物館に行けない、残念な結果になってしまう。
（委員長）
　それと同時に駐車場問題がある。それも含めて市の方で検討してもらいたい。
（委員）
　ターゲットとしての子供について、保護者も含めて考えるほうがよい。
　当市では約30年前から昔のくらし体験講座がある。評判の良い活動だ。
　例えば博物館の一角に集めて、同様な体験的な活動ができるよう考えてもいいのではないか。
　それから約10年前から子供たち中心の博物館活動（友の会タカラさがし部）がある。小・中学校の先生方、それから博物館の学芸員の方々やあるいは関連する市の職員も集まり、子供たちとほぼ同数の保護者がその活動に加わっている。新市立博物館の中でこれをどうやっていくかということで考えていけばいいと思う。
　こうした既存の活動をうまく受け継いで、あるいは連携をしながら活動ができるだけの素地はできている。
　またそうした活動の研究成果を展示するなどの可能性がある。
　二つ目は交通問題が挙がっていたが、安曇野案内人倶楽部があり、安曇野の発信をしている。倶楽部では2時間程度のコースをつくっている。先ほど同様そうしたものを活用してできればよいのではないか。
（委員長）
　昔の暮らし体験講座のような、全体ではなくて地域的なものをしっかりやれる体制を考えていきたい。
　その場合は新博物館だけではなく、地域の他の館に担ってもらう方法も考えられる。
　具体的にソフトの面で何をやっていくかを市の方でさらに詰めてもらいたい。
　それから過去の活動と今後やろうとしていることとをどのように繋げていくかは大きな課題だ。
　安曇野の地域が誇る人がたくさんいる中で、それをうまく活用しながら、「多くの人に安曇野を理解してもらうための根拠地」としての博物館の役割について市の方でもう一度考えてもらいたい。

⑵ 博物館施設整備に向けた費用の算出について
　　新市立博物館整備方針検討委員会の今後の動きについて
（事務局説明）
（委員長）
　収蔵庫をどのレベルにするかによって費用も大きく違ってくる。
　そして準備センターの問題ではどういう展示をしてどういう形で収集していくのかという問題も生じてくる。
　具体的にどういう展示をするためには今何が足りていて何が足りないか。その準備をどこまでするのかを考えなければならない。
　そういった意味で準備センター的なものが必要なのではないか。
　今後の委員会の予定としては最終的に提案書を作って市長に委員会としての結論を提出する。

まとめをするが全員の意見が一致しない場合であっても、事務局の作った案と私の考え等を合わせた上で、提出することとなる。
今まで論議したものをできるだけ入れながら、やれることとやることを峻別しながらやっていきたい。
（委員）
豊科郷土博物館の学芸員の人たちと新市立博物館準備センターの人員はどうなるのか。
（委員長）
今の段階では全く考えていない。
どのような人材を入れるかによって博物館の運営内容が決まる。
新しく正式採用してくれるかどうか。一方で今までのような専門分野だけではなく、それを繋ぐ人材をどうやって作っていくかという課題について市の方で検討してもらいたい。
（事務局）
新市立博物館準備室が平成28年度から令和3年度まで（博物館係の兼務で）置かれていた。コンパクト展示の拠点、資料の整理を主な業務としていた。
一方の新市立博物館準備センターは、人を増やすというよりも資料の整理スペースを設けることを主目的として構想に明記されていた。
（委員長）
新市立博物館準備センターはどうするのか、現状のままで進められるのか、空間が必要なのかについても市の方で検討してもらいたい。
次の課題として、博物館デジタル化の問題や広報の問題などについてわかるようにしてもらいたい。
今回は委員に現状を確認してもらったということで進めたい。

(3)　新市立博物館の規模と立地条件について（非公開）

４　その他
特になし

５　閉　会（11：50）